点群処理ソフトウェアの機能と要件

計測点群データの不要点削	1) 空中写真測量では、空中写真の撮影範囲を全体的に計測するため、またTLSの計
	測は取得範囲をランダムに計測するため、被計測対象物以外の構造物のデータを含ん
除機能	でいるため、計測結果から不要な計測データを削除することができる。
	(削除の方法は、点群処理ソフトウェアを用い、計測点群データの3次元的な鳥瞰図
	を見ながら、対象範囲外のデータかどうかを目視確認し、選択、削除する方法が一般
	的である。)
点群密度の変	1)空中写真測量等では、多くの3次元座標点群を算出することが可能であり、すべての
更 (データの間	計測点群データを利用してもよいが、全てのデータを用いることでコンピュータの処理
引き)機能	を著しく低下させてしまう場合は、類似の座標データから代表点を抽出して点群密度を
	減らす作業ができる。
	2) 計測データについては各編に規定する所定の点密度が確保できる程度まで点群密度
	を減らしてよい。
	3) 密度の変更方法は、用途によって様々な手法が開発され、平面範囲(例えば土工出
	来形評価の計測密度である1㎡以内)で鉛直方向の最下点や中央値を抽出することは
	よいが、平均処理を行うなど、座標値を変更するような処理を採ってはならない(出
	来形評価用データでは、以下のグリッドデータ化機能による場合は除く)。
グリッドデー	1) 出来形評価用データとしては、点群密度の変更による方法の他に、内挿により格子
タ化機能	状に加工することにより、各編に規定する所定の点密度に調整したデータとすること
	ができる。この場合以下のいずれかの方式によることができる。
	a. 出来形評価で用いるグリッドサイズ(例えば土工の場合1㎡(1m×1m))以
	内のグリッドを設定し、グリッドの中央あるいは格子点に評価点(x、y)を設置
	する。評価点の標高値は、評価点を中心とする出来形評価で用いるグリッドサイズ
	以内の実測測点と設計面との差の最頻値または差の平均値を設計値に加算した値を
	用いる。あるいは、以下を用いることもできる。
	b. 再近隣法
	グリッド点から最も近い点の標高値を採用
	c. 平均法
	内挿するグリッドからある検索範囲内にある計測点群データの標高の平均値を標
	高値として採用。このとき検索範囲はグリッド格子間隔の2倍程度を限度とする。
	d. TIN法
	計測点群データから発生させたTINを用いて、平面座標として内挿するグリッ
	ドが含まれる三角形上の標高値を採用
	e. 逆距離加重法
	計測点群データ各点から一定距離内の各点群に対し、グリッドまでの距離に応じ
	た重みを付けて内挿する方法。一定距離については、はグリッド格子間隔の2倍程
	点群密度の変 更(データの間 引き)機能 ブリッドデー

番号	機能	要件
		度を限度とする。
4	計測点群デー	1) 現場での計測結果が複数ある場合にひとつの計測点群データとして取りまとめるこ
	タの合成機能	とができる。複数スキャンのまとめ方については、大きく2つの方法がある。
		a. 各スキャンで個別の3次元座標に変換した結果をひとつの点群に合成
		各スキャンで標定点や基準点等を利用して3次元座標へ変換しておき、単純に計
		測点座標群を合成する。
		b. 複数スキャン内の特徴点を用いて合成を行ったのちに3次元座標に変換
		複数のスキャンで共通に取得されている特徴点や標定点を基準に点群を合成する
		手法である。各スキャンから同じ特徴点を抽出してマッチングさせる。この手法で
		は、特徴点の抽出時のずれや計測誤差により、合成時のゆがみなどが生じる場合な
		どもあることから実施時には注意が必要である。
5	面データ(出来	1)計測点群データの不要点削除が終了した点群を対象にTIN(不等三角網)を配置
	形計測データ、	し、地形や岩区分境界あるいは出来形の面データを作成することができる。
	起工測量計測	自動でTINを配置した場合に、現場の出来形形状と異なる場合は、TINの結合
	データ、岩線計	方法を手動で変更してもよい。
	測データ) の作	
	成機能	

なお、上記要件を満たすものであれば、各機能に応じてソフトウェアを使い分けて点群処理を行ってもよい。

3次元設計データ作成ソフトウェアの機能と要件

番号	機能	要件
1	3 次元設計デ	1) 座標系の選択機能
	ータ等の要素	3次元設計データの座標系を選択することができる。
	読込 (入力) 機	2) 平面線形の読込(入力)機能
	能	設計図面に示される法線の平面線形を読込(入力)できる。なお、線形の幾何要素
		は、直線区間(開始点、終了点)と曲線区間(開始点、IP点、終了点)等で定義さ
		れる。
		3) 縦断線形の読込(入力)機能
		設計図面に示される法線の縦断線形を読込(入力)できる。なお、線形の幾何要素
		は、縦断勾配変化点の累加距離、標高、縦断曲線長(または縦断曲線半径)で定義さ
		れる。
		4) 横断形状の読込(入力) 機能
		設計図面に示される横断形状を読込(入力)できる。なお、横断形状の幾何要素は、
		中心線形(平面線形)を基準に、センターからの離れ距離(起点からの終点に向け右
		側を+、左側を-)と勾配(あるいは比高)などで定義される。
		5) 現況地形データの読込(入力)機能
		起工測量で得られた計測点群データあるいは面データを読込(入力)できる。
2	3 次元設計デ	1) 上記1で読み込んだ(入力した) 中心線形データ(平面線形データ、縦断線形デー
	ータ等の確認	タ)横断形状データと出力する3次元設計データを重畳し、同一性を確認するため入
	機能	力値比較や3次元表示が確認できる。
3	設計面データ	1)上記1で読み込んだ(入力した)3次元設計データの幾何要素から設計の面データ
	の作成機能	を作成することができる。なお、本ガイドラインでいう面データは、TIN(不等辺
		三角網)データとする。
4	3 次元設計デ	1)上記3で読み込んだ設計面データと起工測量データに基づく、3次元設計データを
	ータの作成機	作成することができる。
	能	
5	座標系の変換	1) 3次元設計データを、上記1で選択した座標系に変換することができる。
	機能	
6	3 次元設計デ	1) 上記 $4\sim5$ で作成・変換した 3 次元設計データを $LandXML$ 形式や使用するソフトウェ
	ータの出力機	ア等のオリジナルデータで出力することができる。
	能	

出来形帳票作成ソフトウェアの機能と要件(面管理の場合)

(1) 土工、ほ場整備工事、暗渠排水工事

番号	機能	要件
1	出来形の良否	1) 取得した出来形評価用データと3次元設計データの面データとの離れを算出し、出
	評価機能	来形管理基準上の管理項目の計算(標高較差の平均値等)と出来形の良否の評価がで
		きる。
2	出来形管理基	1) 3次元設計データから管理を行うべき範囲(平場、天端、法面(小段含む)の部位
	準上の管理項	別)を抽出し、部位別に3次元設計データと出来形評価用データの各ポイントとの離
	目の計算結果	れ(標高較差あるいは水平較差)を計算し、平均値、最大値、最小値、データ数、評価
	の出力機能	面積及び棄却点数を出力することができる。
		2) 標高較差は、各ポイントの標高値と、平面座標と同じ設計面上の設計標高値との差
		分として算出し、水平較差は、当該ポイントを含み、かつ「法面や構造物の位置をコ
		ントロールする線形」に直交する平面上で設計面の横断を見たとき、当該ポイントと
		同一標高値の横断上の点との距離として算出することができる。
		ここで「法面や構造物の位置をコントロールする線形」とは、道路中心、幅員中心、
		並びに法肩や法尻及び道路端部を結ぶ線形のことをいう。
		3) 出来形管理図表(様式5)を満足する項目を表形式で印刷、または3次元モデルの
		属性情報として表示することができる。
3	出来形分布図	1) 設計形状の比較による出来形の良否判定が可能な出来形分布図を出力できる。
	の出力機能	2)3次元設計データから管理を行うべき範囲(平場、天端、法面(小段含む)の部位
		別)を抽出し、部位別に3次元設計データと出来形評価用データの離れの計算結果を
		出来形評価用データのポイント毎に分布図として表示することができる。
		3) 分布図が具備すべき情報としては、以下のとおりとする。
		・評価範囲全体が含まれる平面図(部位別に別葉とする。)
		・離れの計算結果の規格値に対する割合示すヒートマップとして-100%~+100%の
		範囲で出来形評価用データのポイント毎に結果示す色をプロットするとともに、色
		の凡例を明示する。
		・±50%の前後、±80%の前後が区別できるように別の色で明示する。
		・規格値の範囲外については、-100%~+100%の範囲とは別の色で明示する。
		/シピ ユーン 中口ピロノ 1 〜 ママ・マコの 、

(2)舗装工事

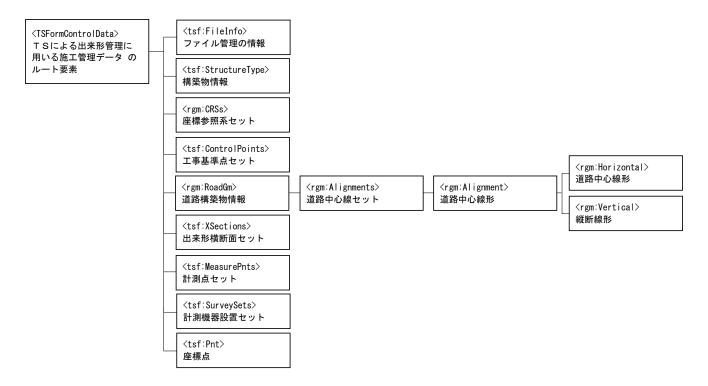
番号	機能	要件
1	出来形の良否	1) 取得した出来形評価用データと3次元設計データの面データとの離れを算出し、出
	評価機能	来形管理基準上の管理項目の計算(標高較差の平均値等)と出来形の良否の評価がで
		きる。
2	出来形管理基	1) 3次元設計データから管理を行うべき各層の範囲を抽出して、各層毎に厚さあるい
	準上の管理項	は標高較差(標高較差は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さか
	目の計算結果	ら求まる高さとの差)を計算し、平均値、最大値、最小値、データ数、評価面積及び棄
	の出力機能	却点数を出力することができる。
		2) 標高較差は、平面座標が同じ位置の目標高さの差分として算出することができる。
		3) 出来形管理図表(様式5)を満足する項目を表形式で印刷、または3次元モデルの
		属性情報として表示することができる。
3	出来形分布図	1) 設計形状の比較による出来形の良否判定が可能な出来形分布図を出力できる。
	の出力機能	2) 3次元設計データから管理を行うべき各層の範囲を抽出して、各層毎に3次元設計
		データと出来形評価用データの離れの計算結果を出来形評価用データのポイント毎に
		分布図として表示することができる。
		3) 分布図が具備すべき情報としては、以下のとおりとする。
		・評価範囲全体が含まれる平面図(舗装の各層毎に別葉とする。)
		・離れの計算結果の規格値に対する割合示すヒートマップとして-100%~+100%の
		範囲で 出来形評価用データのポイント毎に結果示す色をプロットするとともに、色の
		判例を明示 する。
		・±50%の前後、±80%の前後が区別できるように別の色で明示する。
		・規格値の範囲外については、-100%~+100%の範囲とは別の色で明示する。
		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
Ĺ		

出来形管理用TS等光波方式技術に用いる施工管理データの機器間データ交換の機能と要件

番号	機能	要件						
1	ファイル形式	施工管理データの	の交換に用		` ''	. 形式(XML1.	0 に準拠) とする	0
2	データ構造	施工管理データの交換に用いる XML 文書構造は、XML Schema によるものとする。データ					_	
		換は、この XML Schema に対し、妥当な XML 文書(Valid XML Document)でなければならない。						
3	文字符号化形式	XMLファイルならびに XMLSchema ファイルに使用する文字符号化形式は、「UTF-8」または「UTF-16」とする。						または
4	数値精度	座標等に関する数値		下記を確保す	ることとす	る。		
		項目		精度		備考	;	
		平面座標(X, Y)	<u></u>		ŕ	5 5		
		測点 (m)	<u></u>	>数点以下4桁	ŕ			
		距離(m)	<u></u>	>数点以下4桁	ŕ			
		標高 (m)		>数点以下4桁				
		円曲線半径(m)		>数点以下4桁				1
		クロソイドパラメ		>数点以下 4 桁				
		クロソイド半径(>数点以下4桁				
		傾斜 (%)		>数点以下3桁		i向は(+)、	(一) で記述	1
		勾配 (1:X)		>数点以下3桁			(一) で記述	
		角度		>数点以下 5 桁		94-55-50		
			<u> </u>					
5	施工管理データの機器間データ	施工管理データの 第1 直接測定によ	D) 4 HH 1 4 7	ータ交換を行う 管理で定める!		下表に示す	ものである。	〕別表
	交換と「出来形 管理基準及び規	土木丸	施工管理基	準及び規格値	の分類		るデータ交換	
	格値」の工種分		工種	項目	掲載〕	類 構築物種別 (type)	リ 構成の種別 (xSect Type)	
	類	共通工事	掘削	基準高	4	共通土工	掘削	
				幅	4			
				法長 施工延	<u>4</u> ₹ 4	_		
			盛土	基準高	4		盛土	
				幅 法長	4	_		
				施工延	<u>4</u> ₹ 4			
			栗石基礎	幅	10		栗石基礎	
				厚さ 施工延:	10 = 10	\dashv		
			砕石基礎		支 10 10	\dashv	砕石基礎	
				厚さ	10			
			砂基礎	施工延	長 10 10	\dashv	砂基礎	
			沙荃啶	幅 厚さ	10	\dashv	沙垄啶	
				施工延.	長 10			
			均しコンクリ	ート <u>幅</u> 厚さ	10	_	均しコンクリート	
				<u>厚さ</u> 施工延:	<u>10</u> 長 10	\dashv		
			管体基礎工	[幅	46	管水路	管体基礎工	
			(砂基礎等) 基盤造成			工事 ほ場整備	(砂基礎等) 基盤造成	
			<u>基</u> 盔 宣成 _ 表土整地	基準高。 基準高。		^{は場登佣} 工事	<u>基盤這</u> 成 表土整地	
				[1410		<u> </u>	, ~ ~ ~ - ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ 	ı
6	データ内容	施工管理データの	り交換にお	いて XML Sche	ma (TSForm	ControlData.	xsd) で規定され	る要素
		を次頁に示す。						

6-1 全体構成

施工管理データの機器間データ交換の主要な要素について、その構成を下図に示す。



6-2 ルート要素

要素名	TSFormControlData	ルート要素
内 容	TS による出来形管理に用いる施工管	理データ交換標準のルート要素
図		tsf:FileInfo 1 ファイル管理の情報 tsf:StructureType 構築物情報 「gm:CRSs + 座標参照系セット 「tsf:ControlPoints + 工事基準点セット 「gm:RoadGm + 道路構築物情報 1 はまf:XSections + 出来形側が面セット 1 はまf:MeasurePnts + 計測点セット 0 「tsf:SurveySets + 計測機器設置セット 「tsf:Pnt + 産標点 0 「定標点 0 「なず:Pnt + 「定標点 0 「なず:Pnt + 「定標点 0 「なず:Pnt + 「なず:Pnt +
子要素	tsf:FileInfo tsf:StructureType rgm:CRSs t tsf:MeasurePnts tsf:SurveySets tsf:Pnt	sf:ControlPoints rgm:RoadGm tsf:XSections
テキスト ノード	_	
属 性	_	

6-3 ヘッダー

利用スキーマのバージョンは、スキーマの取得アドレスとともにヘッダーにて管理を行う。

<tsf:TSFormControlData

xmlns:tsf=" http://www. maff.go.jp/j/nousin/sekkei/index.html/ TSForm_Control_MAFF-1.0" xmlns:rgm=" http://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/index.html/MAFF_RoadGM-1.1" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:schemaLocation="http://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/index.html/TSForm_Control_MAFF-1.0 TSForm_Control_MAFF-1.0.xsd">

6-4 ファイル管理情報

	POZITI							
要素名	FileInfo ファイル管理の情報							
内 容	ファイル管理に関する情報							
X	FileInfo ファイル管理の情報							
子要素	_							
テキスト ノード	_							
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール			
属性	createDate	作成日時 (必須)	dateTime	<任意>	データの作成日時<表記例> "2007-02-24T14:28:40"			
// - 29 <u> </u>	changeDate	修正日時	dateTime	<任意>	データの更新日時<表記例> "2007-02-24T14:28:40"			
	note	注記	string	<任意>	変更理由に関する注記			
記入例	<tsf:fileinfo createdate="2010-10-31T12:00:00"></tsf:fileinfo> <tsf:fileinfo changedate="2010-11-10T14:00:00" createdate="2010-10-31T12:00:00" note="第 1 回設計変更"></tsf:fileinfo>							

注1:ファイル管理情報は、基本設計データ作成時においてデータ交換の記述に変更がある度に 記録し、過去の変更情報も残すこととする。

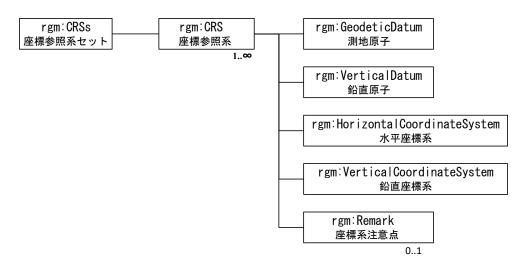
注2:出来形計測時はデータ交換の変更には含まないこととする。ファイル管理情報へ記述する 必要はない。

注3:変更履歴は、ユーザーの判断で記録することとする。作成途中等の履歴を自動で残す必要 はない。

6-5 構築物情報

コーラ 情栄物情	I FIX							
要素名	StructureType 構築物情報							
内 容	構築物の情報							
図	StructureType 構築物情報							
子要素	_							
テキスト ノード								
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味、運用ルール			
	type 構築物種別 (必須) string 1頁(番号5)参照のこととする。							
	jobName	工事名	string	<任意>	出来形帳票に記述する工事名を 記述する			
属性	company	施工業者名	string	<任意>	施工業者名を記述する			
				NO	測点名が NO.の場合			
				SP	測点名が SP.の場合			
	stationType	測点形式 (必須)	string	STA	測点名が STA.の場合			
				距離標	測点名が距離標(距離)の場合			
記入例	<tsf:structuretype company=" A 建 設 会 社 " jobname=" A 水路工事 " stationtype="NO" type=" 共通土工 "></tsf:structuretype>							

6-6 座標参照系



要素名	rgm:CRSs	座標参照系セット			
内 容	座標系のコレクション				
図	rgm:CRSs				
子要素	rgm:CRS [1n]				
テキスト ノード	_				
属性	_				
記入例	<crss> <crs crsname="CRS1"> <geodeticdatum>JGD 200009(X,Y)< <verticalcoordinatesystem>H</verticalcoordinatesystem>HHH<td>rToTP="0.0"/> :/HorizontalCoordinateSystem></td></geodeticdatum></crs></crss>	rToTP="0.0"/> :/HorizontalCoordinateSystem>			

要素名	rgm:CRS			標参照系			
内 容	対象となる道路構築物が位置する座標系						
図	CRS 上 - · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	測地原子 Verti 給直原子 Hori: 水平座標	icalDatum zontalCoordin % icalCoordinate				
子要素	rgm:GeodeticDatum, rgm:VerticalDatum, rgm:HorizontalCoordinateSystem, rgm:VerticalCoordinateSystem, rgm:Remark [01]						
テキスト ノード							
	属性名	属性の意味	データ型	データ			
属 性	CRSName	座標系名称 (必須)	string	<任意>	例: CRS1		

(1)測地原子

/ 1/13: 2//31: 3	M3-50W 1							
要素名	rgm:GeodeticDatum 測地原子							
内 容	測地原子	測地原子						
図	▼ GeodeticDatum 測地原子							
子要素	_							
	データ型	データ						
-, ,	string	"JGD2000"	日本測地系 2000					
テキスト ノード		"JGD2011"	日本測地系 2011					
		"TD"	日本測地系					
		"WGS84"	世界測地系					
属性 一								

注: "WGS84"は、施工管理データの機器間データ交換の中では用いない

(2)鉛直原子

要素名	rgm:VerticalDat	um	鉛直原子	鉛直原子			
内 容	鉛直原子						
図	VerticalDatum _{鉛直原子}						
子要素	_	_					
テキスト ノード	_	_					
	属性名	属性の意味	データ型	データ			
属 性	StdName	基準面名 (必須)	string	<任意>	例:T.P		
	DifferToTP	TP との標高差 (必須)	double	<任意>	T.P(東京湾中等潮位)との 差を記述		

注:標高により鉛直位置を指定する場合の基準面を記述する

主要河川の基準名及びT. Pとの標高差

河川名	基準面	T. Pとの標高差
東京湾中等潮位	T.P	
北上川	K.P	-0.8745 m
鳴瀬川	S.P	-0.0873 m
利根川	Y.P	-0.8402 m
荒川・中川・多摩川	A.P	-1.1344 m
淀川	O.P	-1.3000 m
吉野川	A.P	-0.8333 m
渡川	T.P.W	+0.113 m
琵琶湖	B.S.L	+84.371 m

(3)水平座標系

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大 左 保 木				
要素名	rgm:HorizontalCoordin	ateSystem	水平座標系		
内容	水平座標系				
図	■ Horizontal Coordin	ateSystem			
子要素	_				
	データ型	データ			
		"1(X,Y)"	平面直角座標系第Ⅰ系		
		"2(X,Y)"	平面直角座標系第Ⅱ系		
		"3(X,Y)"	平面直角座標系第Ⅲ 系		
テキスト		"4(X,Y)"	平面直角座標系第IV系		
ノード	string	"5(X,Y)"	平面直角座標系第V系		
		"6(X,Y)"	平面直角座標系第VI系		
		"7(X,Y)"	平面直角座標系第VII系		
		"8(X,Y)"	平面直角座標系第Ⅷ系		
		"9(X,Y)"	平面直角座標系第IX系		

	"10(X,Y)"	平面直角座標系第 X 系
	"11(X,Y)"	平面直角座標系第 X I 系
	"12(X,Y)"	平面直角座標系第 Ⅹ Ⅱ 系
	"13(X,Y)"	平面直角座標系第 🛛 系
	"14(X,Y)"	平面直角座標系第XIV系
	"15(X,Y)"	平面直角座標系第XV系
	"16(X,Y)"	平面直角座標系第XVI系
	"17(X,Y)"	平面直角座標系第XⅦ系
	"18(X,Y)"	平面直角座標系第ⅩⅧ系
	"19(X,Y)"	平面直角座標系第XIX系
	"(B,L)"	測地座標系(緯度・経度)
属 性	_	

注: "(B,L)"は、施工管理データの機器間データ交換の中では用いない

(4)鉛直座標系

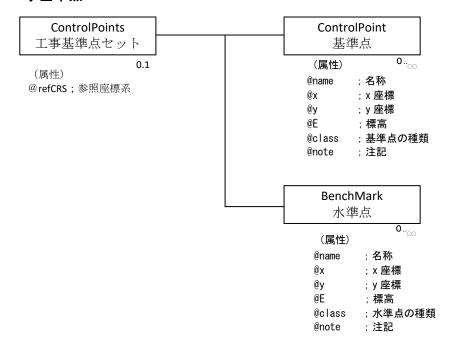
要素名	rgm:VerticalCoordinateSystem 鉛直座標系				
内 容	鉛直座標系				
図	でVerticalCoordinateSystem 鉛直座標系				
子要素					
	データ型	データ			
テキスト ノード	#H" 鉛直原子となる平均海面からの高さ (初期値~)				
	"h" 楕円体高				
属性 一					

注1:標高により鉛直位置を指定する場合、鉛直座標系は"H"となる。 注2: "h"は、施工管理データの機器間データ交換の中では用いない

(5)座標系注意点

要素名	rgm:Remark		座標系注意点
内 容	座標参照系についてのコメント		
X	₹ Remark 座標系注意点		
子要素	_		
テキスト	データ型	データ	
ノード	string	<任意>	座標参照系についてのコメント
属 性	_		

6-7 工事基準点



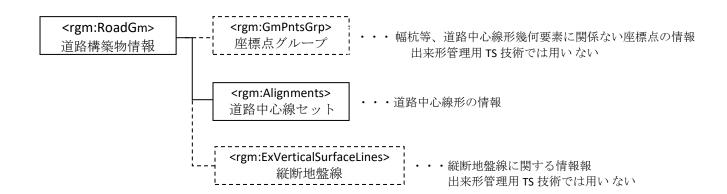
要素名	ControlPoints 工事基準点セット				F
内 容	工事に用い	いる基準点、水準	点に関する	情報	
図	ControlPoint 基準点				
子要素	ControlPoi	nt [0n], BenchM	lark [0n]		
テキスト ノード	_				
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール
属 性	refCRS 参照座標系 (必須) string rgm:CRS/ @CrsName				

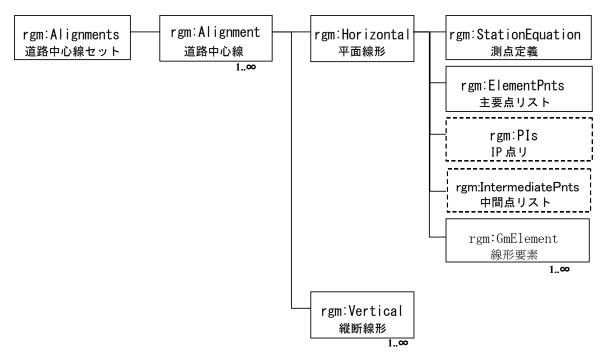
要素名	ControlPoint 基準点						
内 容	基準点測量により設置された基準点(狭義の基準点)に関する情報						
図	Controll 基準点	ControlPoint 基準点					
子要素	_						
テキスト ノード	_						
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール		
	name	name 基準点の名称 (必須) String <任意> 基準点の名称を記述する					
	х	X座標 (必須)	double	<任意>	基準点測量により計算された、基準点のX座標		
	У	Y 座標 (必須)	double	<任意>	基準点測量により計算され た、基準点の Y 座標		
	E 標高 double <任意> 基準点測量により計算され、基準点の標高						
				"電子基準点"	電子基準点の場合		
属 性				"一等三角点"	一等三角点の場合		
				"二等三角点"	二等三角点の場合		
				"三等三角点"	三等三角点の場合		
	class	基準点の種類	string	"四等三角点"	四等三角点の場合		
				"1級基準点"	1級基準点の場合		
				"2 級基準点"	2 級基準点の場合		
				"3 級基準点"	3 級基準点の場合		
				"4級基準点"	4 級基準点の場合		
	note	注記	string	<任意>	基準点に関する注記		

要素名	BenchMark		水注	準点			
内 容	基準点測量	基準点測量(水準測量)により設置された水準点に関する情報					
図	BenchMa 水準点	BenchMark 水準点					
子要素	_						
テキスト ノード	_						
	属性名	属性名 属性の意味 データ型 データ データの意味・運用ルー					
	name	水準点の名称 (必須)	string	<任意>	水準点の名称を記述する		
	х	x 座標	double	<任意>	水準点のX座標		
	У	Y座標	double	<任意>	水準点のY座標		
	E 標高 (必須) double <任意> 水準測量により観定 た、水準点の標高						
				"一等水準点"	一等水準点の場合		
属性				"二等水準点"	二等水準点の場合		
				"三等水準点"	三等水準点の場合		
	class	水準点の種類	string	"1級水準点"	1級水準点の場合		
	Class	小中点の種類	string	"2 級水準点"	2級水準点の場合		
				"3 級水準点"	3級水準点の場合		
				"4級水準点"	4級水準点の場合		
				"簡易水準点"	簡易水準点の場合		
	note	注記	string	<任意>	水準点に関する注記		

6-8 道路中心線形

一8 追路中心粉	KIIZ						
要素名	rgm:RoadGm		道路構	築物情報			
内 容	道路中心線形の	道路中心線形の情報					
X	rgm:RoadGm - Alignments + 道路構築物情報 道路中心線形セット ExVerticalSurfaceLines + 縦断地盤線リスト						
子要素	rgm:GmPntsGrp	rgm:GmPntsGrp[01], rgm:Alignments, rgm:ExVerticalSurfaceLines[01]					
テキスト ノード							
	属性名	属性の意味	データ型	データ			
	RouteName	路線名(必須)	string	<任意>			
属 性	Classification	道路規格 (必須)	string	<任意>	以下から選択 第1種第1級,第1種第2級, 第1種第3級,第1種第4級 第2種第1級,第2種第2級 第3種第1級,第3種第2級, 第3種第3級,第3種第4級, 第3種第5級 第4種第1級,第4種第2級, 第4種第3級,第4種第4級		
	DesignSpeed	設計速度 (必須)	integer	<任意>	以下から選択 120,100,80,60,50,40,30,20 (km/h)		
	TrafficVolume	設計交通量	integer	<任意>	(台/1目)		
記入例	<roadgm classification="第 1 種第 2 級" designspeed="60" routename="一般〇〇号(仮)" trafficvolume="28400"> </roadgm>						





要素名	rgm:Alignments	道路中心線セット
内 容	道路中心線形(rgm:Alignment)のセット	
図	Alignments Alignment 中 道路中心線形セット 道路中心線形 1 ∞	
子要素	rgm:Alignment [1n]	
テキスト ノード	_	
属 性	_	

要素名	rgm:Alignment	<u> </u>	道	[路中心線形	
内 容	道路中心線形	に関する情報。	•		
図	Horizontal 中平面線形 道路中心線形 Horizontal 中 縦断線形 1				
子要素	rgm:Horizonta	l, rgm:Vertical			
テキスト ノード	_				
	属性名	属性の意味	データ型	データ	
	Name	名称 (必須)	string	<任意>	線形名称
属性	RefCRS	参照座標系 (必須)	string	rgm:CRS/ @CrsName	その線形が使用する参照座 標系の名称
	Note	注記	string	<任意>	
記入例	<alignments> <a 1"="" <="" a="" href="《Alignment Name=" note="《道》《区間" refcrs="CRS1" 》="" 線形=""> </alignments>				

注1: "Name"は、道路中心線形を識別するため、交換データの中で一意になるように記述する。

注2: 道路中心線形の形状記述における座標値が基準とする座標参照系(rgm:CRS)を、rgm:CRS 要素の Name 属性値により指定する。

(1)平面線形

要素名	rgm:Horizontal		平面線刑	3			
内 容	平面線形に関する情報						
図	StationEquation 中 漁点定義 ElementPnts 中 主要点リスト T面線形 PIs 中間点リスト IntermediatePnts 中間点リスト GmElement 中間点リスト Superelevation 中 片公配繰り付け						
子要素		rgm:StationEquation, rgm:ElementPnts, rgm:Pls[01], rgm:IntermediatePnts [01], rgm:GmElement[1n], rgm:Superelevation[01]					
テキスト ノード	_						
	属性名	属性の意味	データ型	データ			
	Name	名称 (必須)	string	<任意>	平面線形名称		
	StartStationNO	開始測点番号 (必須)	integer	<任意>			
	StartAddDist	開始点追加距離 (必須)	double	<任意>			
属性	CumulativeDist	開始点累加距離標 (必須)	double	<任意>	開始測点を基準とした その位置ま での距離		
	EndStationNO	終了測点番号 (必須)	integer	<任意>			
	EndAddDist	終了点追加距離 (必須)	double	<任意>			
	Length	総延長 (必須)	double	<任意>			
	Method	線形計算手法名 (必須)	string	"IP 法" "要素法"	IP法か要素法の何れ かを記入		
	Note	注記	string	<任意>			
記入例		<pre><horizontal endadddist="13.2510" endstationno="3" length="73.2510" method="IP 法" name="String" note=" • • • " startadddist="0.0000" startstationno="0"></horizontal></pre>					

①測点定義

要素名	rgm:StationEquation	測点定義
内容	測点の定義に関する情報	
図	StationEquation Interval 測点間隔 Interval 別点間隔 Interval Interval	
子要素	rgm:Interval, rgm:Brake [0n]	
テキスト ノード	_	
属性	_	
記入例	<stationequation> <interval main="100.0" sub="20.0"></interval> <brake beforestationno="4.625773" cumulativedist="462.5773"></brake></stationequation>	" AfterStationNO="8.200000"

要素名	rgm:Interval		測点間隔			
内 容	測点の間隔に	関する情報				
図	Interval					
子要素	_					
テキスト ノード	_	_				
	属性名	属性の意味	データ型	データ		
	Main	主測点間隔 (必須)	double	<任意>		
属 性	Sub	副測点間隔 (必須)	double	<任意>		

要素名	rgm:Brake			ブレーキ			
内 容	測点の「ブレーキ」	測点の「ブレーキ」に関する定義情報					
図	Breke ブレーキ						
子要素	_						
テキスト ノード							
	属性名	属性の意味	データ型	データ			
	BeforeStationNO	ブレーキ前測点 番号	integer	<任意>	ブレーキ地点より前の測 点方式での測点値		
	BeforeAddDist	ブレーキ前測点 追加距離	double	<任意>	ブレーキ地点より前の測 点方式での追加距離		
属性	CumulativeDist	ブレーキ位置の 累加距離標 (必須)	double	<任意>	開始測点を基準としたそ の位置までの距離		
	AfterStationNO	ブレーキ後測点 (必須)	integer	<任意>	ブレーキ地点より後の測 点方式での測点値(変更 後の初期値)		
	AfterAddDist	ブレーキ後測点 追加距離 (必須)	double	<任意>	ブレーキ地点より後の測 点での追加距離		
記入例	<stationequation> <brake afteradddist="3.819" afterstationno="14" beforeadddist="15.723" beforestationno="16" cumulativedist="335.723"></brake> </stationequation>						

②主要点

要素名	rgm:ElementPnts	主要点リスト
内 容	主要点のコレクション 主要点の並びについては記述順とする	
図	ElementPnts 主要点 2 ∞	
子要素	rgm:ElementPnt [2n]	
テキスト ノード	_	
属性	_	
記入例	<pre>< ElementPnts > < ElementPnt Name="KA16-1" x="38380.538689" y="-1864 < ElementPnt Name="KE16-1" x="38387.865389" y="-1849 < ElementPnt Name="KE16-2" x="38481.538689" y="-1840 < ElementPnt Name="KA17-1" x="38576.865389" y="-1839 < ElementPnt Name="EBC17-1" x="38705.538689" y="-183 <!-- ElementPnts --></pre>	3.517299" E="4.175929" Note="・・" /> 5.517299" E="3.517299" Note="・・" /> 7.517299" E="4.175929" Note="・・" />

要素名	rgm:ElementPnt	rgm:ElementPnt 主要点				
内 容	主要点の情報					
図	ElementPnt 主要点					
子要素	_					
テキスト ノード	_					
	属性名	属性の意味	データ型	データ		
	Name	名称 (必須)	string	<任意>	主 要点名称	
属 性	х	x 座標 (必須)	double	<任意>		
	У	y 座標 (必須)	double	<任意>		
	E	標高	double	<任意>		
	Note	注記	string	<任意>		

注:"E"は、施工管理データの機器間データ交換では、記述しない

③ I P点

要素名	rgm:Pls	IP点リスト
内 容	I P点のコレクション。 I P点の並びについては記述順とする	
X	PIS → PI PĀ O ∞	
子要素	rgm:PI [0n]	
テキスト ノード	_	
属性	_	
記入例	<pis></pis>	

注:出来形管理用 TS 技術では、3次元形状の算出における平面線形は、主要点の座標と線形要素の情報から算出することを基本とする。

要素名	rgm:Pl	rgm:Pl I P点				
内 容	IP点の情報	IP点の情報				
図	PI I P点					
子要素	_					
テキスト ノード	_					
	属性名	属性の意味	データ型	データ		
	Name	名称 (必須)	string	<任意>	IP点名称	
属性	х	x 座標 (必須)	double	<任意>		
	У	y 座標 (必須)	double	<任意>		
	Е	標高	double	<任意>		
22	Note	注記	string	<任意>		

注:"E"は記述しない

④中間点

7中间点		
要素名	rgm:IntermediatePnts	中間点リスト
内 容	中間点のコレクション。中間点の並び	については記述順とする。
図	IntermediatePpnts ー IntermediatePpnts 中間点リスト 中間点	mediatePnt V
子要素	rgm:IntermediatePnt [2n]	
テキスト ノード	_	
属性	_	
記入例	CumulativeDist="462.5773" TangentDire < IntermediatePnt Name="0+20.000000" E="4.175929" CumulativeDist="482.577 < IntermediatePnt Name="5+40.000000" E="4.175929" CumulativeDist="982.577 < IntermediatePnt Name="5+56.896365"	"x="38444.553871" y="-19174.503296" "3" TangentDirectionAngle="96-50-52.414" /> "x="38382.552226" y="-18658.212878" "3" TangentDirectionAngle="96-50-52.414" />

要素名	rgm:IntermediatePnt 中間点						
内 容	中間点	中間点					
図	IntermediatePnt 中間点						
子要素	_						
テキスト ノード	_						
	属性名	属性の意味	データ型	データ			
	Name	名称 (必須)	string	<任意>	中間点名称		
	х	x 座標 (必須)	double	<任意>			
属性	У	y 座標 (必須)	double	<任意>			
7/24 133	E	標高	double	<任意>	計画高		
	Note	注記	string	<任意>			
	CumulativeDist	累加距離標 (必須)	double	<任意>			
	TangentDirectionAngle	接線方向角	string	<任意>			

⑤平面線形(幾何)要素

要素名 要素名	可) 安系 rgm:GmElement			幾何要素	
内 容	平面線形を構成す	する幾何要素に	関する情報	R	
図	rgm:GmCurveType Line 直線 O Curve				
子要素	rgm:Line[0n], rgm:Curve [0n], rgm:Clothoid [0n]				
テキスト ノード					
	属性名	属性の意味	データ型	データ	
	Name	名称 (必須)	string	<任意>	幾何要素名称
	StartElementPnt	開 始主 要点 名称 (必須)	string	rgm:ElementPnt /@Name	開始側の端点の名称
属性	EndElementPnt	終 了主 要点 名称 (必須)	string	rgm:ElementPnt /@Name	終了側の端点の名称
	RefPI 参照 I P点 string rgm:PI/@Name I P法の場合、参照する I P点の名称(線形計算手法 名 "Method" にて " I P 法"を選択した場合、必 須)				
<gmelement endelementpnt=" KE1-1" name="00" refpl="IP1" startelementpnt=" KA1-1"> <line length="58.9937" name=" L1"></line> </gmelement> <gmelement endelementpnt=" KE1-2" name="00" refpl="IP1" startelementpnt=" KE1-1"> <curve direction="ccw" length="253.5836" name=" R3" radius="300.000"></curve> </gmelement>					

注1: 平面線形を構成する幾何形状の構成要素で、起点側から平面線形を構成する順番に記述する。 注2: データ構造上、複数の線形要素(直線、円曲線、クロソイド)からなるものとして定義でき るが、施工管理データ交換標準では、1つの直線、円曲線、クロソイドの単位で作成する。

注3: "StartElementPnt" と"EndElementPnt" は、ElementPnt 要素の Name 属性値により指定する

1) 直線

要素名	rgm:Line			直線要素		
内 容	直線の線形要	秦				
図	Line 直線要素					
子要素	-					
テキスト ノード	_					
	属性名	属性の意味	データ型	データ		
属性	Name	名称	string	<任意>	直線名称	
	Length	直線長	double	<任意>		

2)円曲線

要	秦名	rgm:Curve		円 円]弧要素				
P	为 容	円弧(円曲線	円弧(円曲線)の線形要素						
	図	Curve 円弧要素							
子	一要素	_							
	キスト 'ード								
		属性名	属性の意味	データ型	データ				
		Name	名称	string	<任意>	円曲線名称			
		Direction	回転方向 (必須)	string	"cw"	進行方向に対し、時計回りの 場合			
属性	禹 性				"ccw"	進行方向に対し、反時計回りの場合			
		Radius	円弧半径 (必須)	double	<任意>				
		Length	曲線長	double	<任意>				

3) クロソイド

フロノイド									
要素名	rgm:Clothoid	rgm:Clothoid クロソイド要素							
内 容	クロソイドの	クロソイドの線形要素							
図	Clothoid クロソイド要素								
子要素	_	_							
テキスト ノード	_								
	属性名	属性の意味	データ型	データ					
	Name	要素名	string	<任意>					
	Direction	回転方向(必須)	string	"cw"	進行方向に対し、時計回りの場合				
				"ccw"	進行方向に対し、反時計回りの場合				
属 性	StartRadius	開始半径 (必須)	double	<任意>	直線の場合は 0.0				
	EndRadius	終了半径 (必須)	double	<任意>	直線の場合は 0.0				
	A	クロソイドパ ラメータ (必須)	double	<任意>					
	Length	緩和曲線長	double	<任意>					

(2)縦断線形

要素名	rgm:Vertical		縦断線形	縦断線形				
内 容	縦断線形の親要素							
図	Vertical							
子要素	rgm:PVI [2n]							
テキスト ノード	_							
	属性名	属性の意味	データ型	データ				
	Name	名称 (必須)	string	<任意>				
	RefHorizontalNa 参照平面線 me 形名(必 須)		string	rgm:Horizontal /@Name	データが存在する平面 線形の名称でなければ ならない			
	StartStationNO 開始測点番 号(必須)		integer	<任意>				
属 性	StartAddDist 開始点追加 距離(必 須)		double	<任意>				
	CumulativeDist	ZumulativeDist 累加距離標 (必須)		<任意>	開始測点を基準とした その位置までの距離			
	EndStationNO	終了測点番 号(必須)	integer	<任意>				
	EndAddDist	AddDist 終了点追加 距離(必 須)		<任意>				
	Length	総延長	double	<任意>				
	Note	注記	string	<任意>				
記入例	<pre> <vertical endadddist="30000.0000" endstationno="14.570036" length="10000.0000" name="縦断線形 1 " note=" · · · · " refhorizontalname="平面線形 1 " startadddist="20000.0000" startstationno="0.000000"> <pvi pvitype="始点"></pvi></vertical></pre>							

要素名	rgm:PVI			送断勾配線				
内 容	縦断勾配線の	縦断勾配線の情報						
図	PVI PVIPnt 縦断勾配線 縦断勾配線変移点							
子要素	rgm:PVIPnt,							
テキスト ノード	_	_						
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール			
属 性	EXAMPLE OF STATE O			"始点"	縦断線形の開始点の場合			
周 1注			string	"中間点"	勾配変移点(中間点)の場合			
			"終点"	縦断線形の終了点の場合				

要素名	rgm:PVIPnt		縦幽	縦断勾配変移点				
内 容	縦断勾配変移点の位置、標高、縦断曲線長等							
図	PVIPnt 縱断勾配線変移点							
子要素	_							
テキスト ノード	_							
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール			
	StationNO	測点番号 (必須)	integer	<任意>				
	AddDist	追加距離 (必須)	double	<任意>				
	CumulativeDist	累加距離標 (必須)	double	<任意>	開始測点を基準としたその 位置までの距離			
属性	Е	変移点高 (必須)	double	<任意>	変移点の計画高			
	VCL	縦断曲線長	double	<任意>	中間点は必須 (縦断曲線長もしくは縦断 曲線半径の何れかは必須)			
	VCR	縦断曲線半径	double	<任意>	中間点は必須 (縦断曲線長もしくは縦断 曲線半径の何れかは必須)			

6-9 出来形横断面

· 9 山木形 要素名	XSections			出来形横断面セット				
内 容	横断面(XSectio	横断面(XSection)のセット。 横断面が基準とする道路中心線形ごとに作成する。						
図	XSections 1 ∞ 出来形機断面セット 出来形機断面セット 出来形管理対象 O ∞							
子要素	tsf:XSection tsf:Fo	ormCtrlTarget						
テキスト ノード								
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール			
	refAlign	基準とする 道路中心線 形 (必須)	string	rgm:Alignment/ @Name	子要素として定義する横断面 が基準とする道路中心線 形(rgm:Alignment)を、 rgm:Alignment 要素の Name 属 性値で指定する			
属 性	refVertical	基準とする 縦断線形 (必須)	string	rgm:Vertical/ @Name	子要素として定義する横断面間の中間断面を算出する際に基準とする縦断線形(rgm:Vertical)を、rgm:Vertical 要素の Name 属性値で指定する			
				なし (省略)	中心線形を利用する場合			
	alignment 中心線形	boolean	"false"	中心線形を利用しない場合 (舗 装修繕工事等)				
	projectPhase	業務段階	string	<任意>	作成データの業務段階を記述 する。 (例) ○○年度設計			

注1:出来形横断面セットは1線形につき、1セットとする。

要素名	XSection			横断面			
内 容	管理断面位置、形状変化位置、およびその他の横断面の情報。 盛土断面から切土断面に 変化するなど、横断構成が変化する断面では、起点側と終点側 それぞれの横断面を作成す る。						
図	tsf:BuildForm + 横断面 1 tsf:ExistingBuildForm + 地形構築形状 ○ ⊗						
子要素	tsf:BuildForm ts	f:ExistingBuildForn	n				
テキスト ノード	_						
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール		
	name	横断面名	string	<任意>	横断面の名前を記述する。横 断面名はユニークな名称とす る。		
	cumulativeDist	横断面の累加 距離標(必 須)	double	<任意>	横断面の位置を累加距離標で 記述する		
	xSectChg	断面変化	boolean	"true"	横断構成が変化する断面(同一測点において起点側、終点側の横断面が定義される断面) における終点側の断面である場合		
属性				なし(省略)	上記以外の場合、属性を省略する。		
				"true"	管理断面の場合		
	controlSect	管理断面	boolean	なし (省略)	管理断面でない場合、属性を 省略する。		
	directionAngle	方向角	string	<任意>	舗装修繕工事等において任意 の横断面の方向角を記述す る。方向角は線形と横断面を 夾む時計回りのなす角とす る。		
	targetPntID	目標座標名称	string	Pnt/@pntName	舗装修繕工事等において、横 断の方向を決定する座標点を 選択する		

注1:出来形横断面セット(XSections)の中心線形(alignment)がなし(省略)または、false の 選択によって横断面(XSection)の方向角(directionAngle)および目標座標名称(targetPntID) の記述を以下の通り制約することとする。

出来形横断面セット(XSections) 中心線形(alignment)	横断面(XSection) 方向角(directionAngle)
なし(省略)	方向角(directionAngle)および目標座標名称 (targetPntID)は使用しない。
false	方向角(directionAngle)、目標座標名称 (targetPntID)が記述される。方向角と目標座標 名称が両方 含まれる場合は、目標座標名称を優先 して横断面の方向の定義 に利用する。

要素名	BuildForm			構築形状				
内 容		構成点(ComposedPnt)の並びで表現される横断形状。 子要素の ComposedPnt は、幅員中心と横断面の左右の別に記述し、幅員中心から外側の 順位に記述する。						
図	BuildForm ComposedPnt 構築形状 構成点 1 ∞							
子要素	ComposedPnt							
テキスト ノード								
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール			
	name	構築形状の識 別名 (必須)	string	<任意>	構築形状の識別名を記述。前後の横断面で連続する構築形状は、同一の識別名とする。			
属性	xSectType	横断構成の種 別 (必須)	string 1頁(番号5)参照のこととする。					

要素名	ComposedPnt			構成点					
内 容	幅員中心から構	築形状を構成す	る構成点。						
	- ComposedPnt								
図	構成点								
 子要素	_								
	データ型	デー			データの意味				
テキスト	, , ,			構成点の解説、	テキストノードの記述方法を				
	list of double <任意>			参照し記述する	こと。				
	属性名	属性の意味	データ型	! データ	データの意味・運用ルー ル				
	code	構成点コード (必須)	string	<任意>	構成点を識別するコード。 前後の横断面で連続する構成点 は、同一の構成点コードとす る。				
				"Center"	幅員中心を定義する場合				
	Location	構成点の位置 (必須)	string	"Left"	幅員中心から左側の構成点を定 義する場合				
				"Right"	幅員中心から右側の構成点を定 義する場合				
	componentType	構成要素の 種 別	string	"Roadbed"	道路面を定義する場合				
				"Slope"	法面を定義する場合				
				"Berm"	小段を定義する場合				
				"Other"	その他を定義する場合				
		連続点	boolean	なし (省略)	横断面の間で連続する構成点 (3次元形状を定義する点)の 場合、属性を省略する。				
属性	seriesPnt			"false"	横断面の間で連続しない構成点 (3次元形状の定義に用いない 点)の場合(地形との交点な ど)				
周 注		テキストノー ドデー タ構 成 (必須)	string	"WidthHeight"	テキストノードのデータ構成は<幅員,比高差>で定義される。 構成点位置が Center"の場合は "WidthHeight"で記述すること とし、幅員 に中心離れ、比高差 に中心からの比高を記述する。				
	dataType			"Percent"	テキストノードのデータ構成は<幅員,%で規定する勾配>で定義される。				
				"Rate"	テキストノードのデータ構成は (比高差,1:xで規定する比勾配)で定義される。				
		実在	boolean	"true"	構成点が横断面において実在する場合(地形との交点より内側にある場合)				
	existence			"false"	構成点が横断面において実在しない場合(地形との交点より外側にある場合)				
				なし(省略)	管理断面以外で、構成 点の実在が不明もしくは明示し ない場合、 属性値を省略する。				

<構成点の解説>

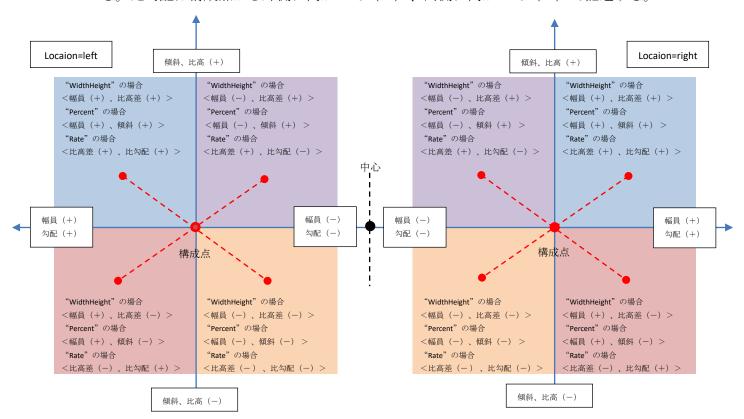
・ 構成要素の種別とテキストノードデータ構成

構成点の位置(location)が左側構成点(Left),右側構成点(Right)の時は必ず構成要素の種別(componentType)とテキストノードデータ構成(dataType)を定義します。

・ テキストノードデータ構成の記述方法

幅員中心はWidthHeightで定義し、CL離れ(中心線における平面線形において接線方向に対して直角方向の平面的な離れ)と比高(計画高からの高低差)をスペース区切りで入力する。また、幅員中心から左右の構成点を構築する要素の幅員,傾斜(%)で定義するPercent、比高差,比勾配(1:x)で規定するRate、あるいは幅員,比高差で規定するWidthHeightをスペース区切りで入力する。

各構成点は幅員中心に対して連続的に記述する。幅員中心は中心線形より左側なら(-)、右側なら(+)で記述する。各要素の幅員は、構成点から外側に向かって(+)、内側に向かって(-)で記述する。比高差は構成点から上側に向かって(+)、下側に向かって(-)で記述する。傾斜は、構成点から外側に向かって下向きは(-)、上向きは(+)で記述する。比勾配は構成点から外側に向かって(+)、内側に向かって(-)で記述する。



<横断面の解説>

横断面は、出来形管理に必要な横断形状(施工形状)および現況横断等の地形の横断形状を表す情報である。出来形横断面は、平面線形の接線方向に対して直角方向に設定する。出来形横断面は、基本的に平面線形の進行方向に対して左右で定義する。河川工事等の設計図書においては、横断面を上流から下流方向の向きで作成するため築堤法線(平面線形)の進行方向に対して左右が反転することとなる。本仕様書では、河川工事に適用する場合でも出来形横断面は、平面線形の進行方向に対して左右で定義することとする。

・ 横断形状の表現

横断形状は、構築形状(BuildForm)ごとに、幅員中心から外側に向かって順番に記述した構成点(ComposedPnt)の並びにより表現し、幅員中心の位置は中心線形からのCL離れと比高、構成点の位置は各構成点からの幅員と傾斜、比高値と勾配、幅員と比高差で表現する。

· 管理断面

管理断面とは、工事において出来形管理基準に基づき、出来形の管理を行う横断面をいう。 通常、設計図書として示される横断図が描かれる横断面(測点および主要点位置)が管理断 面となる。

・ 構成点の設定

構成点とは、構築形状を構成する点をいう。構築形状は折れ線で表現することから、構成点は折れ線の始点と終点及び折れ点からなる。さらに、基準高さを測る位置のように、折れ点でなくとも出来形管理を行うべき点は必ず構成点を設定しなければならない。

<記述例>

<tsf:BuildForm name="盛土工" xSectType="路体盛土工">
<tsf:ComposedPnt code="F1n0" location="Center" dataType="WidthHeight" existence="true">CL離れ 比高</tsf:ComposedPnt>
<tsf:ComposedPnt code="L1n1" location="Left" componentType="Roadbed" dataType="Percent" existence="true">幅員 傾斜</tsf:ComposedPnt>
<tsf:ComposedPnt code="L1n2" location="Left" componentType="Slope" dataType="Rate " existence="true">比高値 勾配</tsf:ComposedPnt>
<tsf:ComposedPnt code="R1n1" location="Right" componentType="Roadbed" dataType=" Percent " existence="true">幅員 傾斜</tsf:ComposedPnt>
<tsf:ComposedPnt code="R1n2" location="Right" componentType="Roadbed" dataType=" Percent " existence="true">幅員 傾斜</tsf:ComposedPnt>
<tsf:ComposedPnt code="R1n2" location="Right" componentType="Slope" dataType=" Rate " existence="true">比高値 勾配</tsf:ComposedPnt>
</tsf:BuildForm>

左右の構成形状は各々、幅員中心

から外側に向かって順番に定義

構成点(左側) 幅員中心 <構成点 位置=中心> -0.7 0.2</構成点 構成点 位置=右側. 北高値 勾配 (構成点 位置=右側. 12.35 24.35 (+)

要素名	ExistingBuildForm 地形構築形状						
内容	地形構成点(ExistingComposedPnt)の並びで表現される横断形状。 子要素の ExistingComposedPnt は、左端から右端に向かって一筆書きに記述する。						
図	ExistingBuildForm 上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上上						
子要素	ExistingComp	osedPnt					
テキスト ノード							
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール		
属 性	name	構築形状の識 別名 (必須)	string	<任意>	地形構築形状の識別名を記述。		

要素名	ExistingComposedPnt 地形構成点					
内 容	地形横断面を構成する構成点の情報。 中心線形の進行方向にむかって左端から右端に向かって一筆書きで記述する。距離は、センターからの距離とし、路線の進行方向に向かって左を(-)、右を(+)とする。					
図	ExistingComPosedPnt 地形構成点					
子要素	_					
,	データ型	データ			ラ	データの意味
テキスト	list of double	<任意>		横断形状の変化点は距離、地盤高の順にスペース区 切で記述する。		
	属性名	属性の意味	デ	ータ型	データ	データの意味・運用ルール
属性	name	点名称	Str	ing	<任意>	測量した横断成果の点名称

要素名	FormCtrlTarget			出来形管理対象					
内 容	出来形の管理 についての情		、基準高、	延長、厚さ、深る	さ)および断面積、面積の管理対象				
図	FormCtrlTargettsf:FormCtrlTargetPnt 出来形管理対象								
子要素	tsf:FormCtrlTarg	tsf:FormCtrlTargetPnt							
テキスト ノード	_								
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール				
				"SlopeLength"	出来形の管理項目が「法長」の場合				
				"Width"	出来形の管理項目が「幅」の場合				
				"Height"	出来形の管理項目が「基準高」の場合				
		管理項目		"Length"	出来形管理項目が「延長」の場合				
	controlltem	(必須)	string	"Thickness"	出来形管理項目が「厚さ」の場合				
				"Depth"	出来形管理項目が「深さ」の場合				
				"XSectArea"	管理項目が「断面積」の場合				
				"Area"	管理項目が「面積」の場合				
	targetScope	対象範囲 (必須)	string	<任意>	出来形帳票作成において、1枚の「測定結果一覧表」にとりまとめる出来形管 理項目の対象範囲(左側盛土の範囲な ど)について、その識別名を記述。1 つの略図に対応する対象範囲である。				
	targetRegio	対象部位 (必須)	string	<任意>	出来形管理を行うそれぞれの対象部位 (1段目の小段、2段目法面など)の 識別名を記述。				
属性				"Shoulder Toe"	管理項目が法長のとき、対象部位の計測 対象点を、「法肩点」, 「法尻点」の順 番に記述する場合				
				"Toe Shoulder"	管理項目が法長のとき、対象部位の計測 対象点を、「法尻点」、「法肩点」の順 番に記述する場合				
				"Inner Outer"	管理項目が幅のとき、対象部位の計測対象点を、「内側点」、「外側点」の順番に記述する場合				
	targetPntType	対象点タイプ(必須)	string	"Left Right"	管理項目が幅のとき、対象部位の計測対 象点を、「左側点」、「右 側点」の順 番に記述する場合				
		(-20)		"TargetPnt"	管理項目が基準高のとき、その計測対象 点のみを記述する場合				
				"Upper Lower"	管理項目が深さのとき、対象部位の計 測対象点を、「上側点」、「下側点」 の順番に記述する場合				
				"Lower Upper"	管理項目が厚さのとき、対象部位の計測 対象点を、「下側点」、,「上 側点」の 順番に記述する場合				
				空文字	管理項目が延長、面積、断面積の場合 (上記項目は、出来形管 理対象点の記述 の順番とする)				

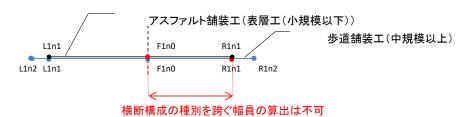
要素名	FormCtrlTargetPnt			出来形管理対象点			
内 容	出来形管理の対	象点について	の情報				
図	FormCtrlTargetPnt 出来形管理対象点						
子要素	_						
テキスト ノード							
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール		
	cumulativeDist	横断面の累 加距離標 (必須)	double	XSection/@ cumulativeDist	横断面の累加距離標で記述する。		
属性	buildFormName	構築形状の 識別名 (必須)	string	BuildForm/@name	構築形状の識別名を記述する。		
	code	構成点コー ド (必須)	string	ComposedPnt/@code	構成点を識別するコード。		
	xSectChg	断面変化	Boolean	XSection/@xSectChg	横断構成が変化する断面の 有無を識別する		

【注意事項】

・幅員、法長の出来形管理対象の定義

出来形管理対象点に複数の横断形状の識別名(buildFormName)がある場合、定義する管理項目(controlltem)がどの横断形状の形状の識別名に対応するか判別するために、幅員、法長、延長の管理項目は、横断形状の識別名の異なる管理項目の設定をしてはいけない。

<幅員の場合>



以下に示すように、出来形管理対象において複数の横断形状の識別名を有する記述はしないこと。

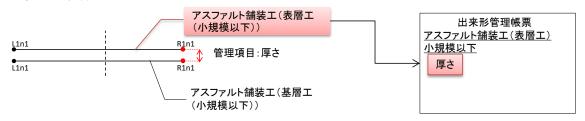
<悪い例>

<tsf:FormCtrlTarget controlltem=" Width " targetScope=" 舗装" targetRegio=" 道路中心" targetPntType=" Inner Outer "> <FormCtrlTargetPnt cumulativeDist = "1000" buildFormName = "アスファルト舗装工(表層工(小規模以下))" code="F1n0" /> <FormCtrlTargetPnt cumulativeDist = "1000" buildFormName = "歩道舗装工(中規模以上)" code="R1n1"/ > </tsf:FormCtrlTarget>

・厚さ、深さの出来形管理対象の定義

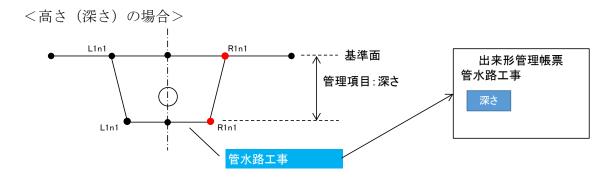
出来形管理対象点に複数の横断形状の識別名(buildFormName)がある場合、厚さの管理項目は、上層に定義されている横断形状の識別名を定義される管理項目として判別する。また、深さの管理項目は、下層に定義されている横断形状の識別名を定義される管理項目として判別する。厚さの出来形管理対象は、同一の横断形状の識別名を含む厚さの管理項目を設定してはいけない。

<厚さの場合>



<記述例>

<tsf:FormCtrlTarget controlltem="Thickness" targetScope="舗装" targetRegio="右1点目" targetPntType="Lower Upper"> <FormCtrlTargetPnt cumulativeDist ="1000" buildFormName ="アスファルト舗装工(表層工(小規模以下))" code="R1n1" /> <FormCtrlTargetPnt cumulativeDist ="1000" buildFormName ="アスファルト舗装工(基層工(小規模以下))" code="R1n1"/ > </tsf:FormCtrlTarget>



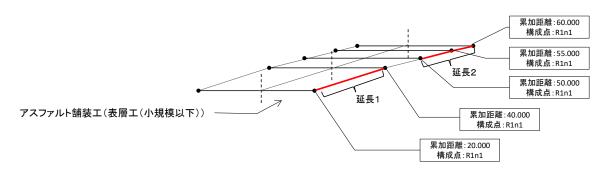
<記述例>

- <tsf:FormCtrlTarget controlltem="Depth" targetScope="管水路工事" targetRegio=" 右 1 点目" targetPntType="Upper Lower"> <FormCtrlTargetPnt cumulativeDist ="1000" buildFormName = "基準面" code="R1n1" />
- <FormCtrlTargetPnt cumulativeDist ="1000" buildFormName ="管水路工事" code="R1n1"/ > </tsf:FormCtrlTarget>

・延長の出来形管理対象の定義

延長の出来形管理対象は、延長として算出する2点以上の複数の出来形管理対象点で構成 される。複数の出来形管理対象点で構成される出来形管理対象ごとに延長を算出する。帳票 を出力する場合は、同一の対象範囲(targetScope)毎に延長を算出することとする。

<記述例>



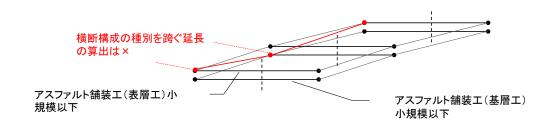
<tsf:FormCtrlTarget controlItem="Length" targetScope="延長1" targetRegio="R1n1" targetPntType="">

<tsf:FormCtrlTargetPnt cumulativeDist="20.0000" buildFormName="アスファルト舗装工(表層工(小規模以下))" code="R1n1" /> <ts:FormCtrlTargetPnt cumulativeDist="40.0000" buildFormName="アスファルト舗装工(表層工(小規模以下))" code="R1n1" /> </tsf:FormCtrlTarget>

<tsf:FormCtrlTarget controlItem="Length" targetScope="延長2" targetRegio="R1n1" targetPntType="">

<tsf:FormCtrlTargetPnt cumulativeDist="50.0000" buildFormName="アスファルト舗装工(表層工(小規模以下))" code="R1n1" /> <tsf:FormCtrlTargetPnt cumulativeDist="55.0000" buildFormName="アスファルト舗装工(表層工(小規模以下))" code="R1n1" /> <tsf:FormCtrlTargetPnt cumulativeDist="60.0000" buildFormName="アスファルト舗装工(表層工(小規模以下))" code="R1n1" /> </tsf:FormCtrlTarget>

出来形管理対象点に複数の横断形状の識別名(buildFormName)がある場合、定義する管理 項目(controlltem)がどの横断形状の識別名に対応するか判別するために、延長の管理項目は、 横断形状の識別名の異なる管理項目の設定をしてはいけない。



以下に示すように、出来形管理対象において複数の横断形状の識別名を有する記述はしない こと。

<悪い例>

<tsf:FormCtrlTarget controlltem=" Length " targetScope=" 舗装" targetRegio=" 左 1 点目" >

<FormCtrlTargetPnt cumulativeDist ="1000" buildFormName ="アスファルト舗装工(表層工)小規模以下" code="L1n1" /> <FormCtrlTagetPnt cumulativeDist ="1040" buildFormName ="アスファルト舗装工(基層工)小規模以下" code="L1n1"/> <FormCtrlTargetPnt cumulativeDist ="1080" buildFormName ="アスファルト舗装工(表層工)小規模以下" code="L1n1 "/ > </tsf:FormCtrlTarget>

6-10 計測点

要素名	MeasurePnts		計測点	計測点セット			
内 容	計測点(MeasurePnt)のセット。 計測対象点が基準とする中心線形ごとに作成する。						
図	MeasurePnts 計測点セット 計測点 1 ∞						
子要素	MeasurePnt						
テキスト ノード	_						
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール		
	classification	計測点の種別 (必須)	string	"FormControl"	出来形帳票に反映する出来 形計測点 (出来形管理対象点を計測 した計測点)		
				"QualityInspection"	品質証明員の計測点		
				"bySupervisor"	監督職員による計測点		
				"byInspector"	検査職員による計測点		
属性				"ExtraFormControl"	出来形管理対象点以外(任 意出来形管理)を計測した 計測点(その他の出来形計 測点)		
				"Any"	出来形帳票に反映可能な出 来形計測点		
	operator	測定者	string	<任意>	出来形帳票に記述する測定 者を記述する		
	refAlign	基準とする道 路中心線形 (必須)	string	rgm:Alignment/ @Name	子要素として定義する計測 点の計測対象点が基準とす る、道路中心線形 (rgm:Alignment)を、 rgm:Alignment 要素の Name 属性値により指定する		
	desc	備考	string	<任意>	計測点セットの説明		

要素名	MeasurePnt #			測点		
内容	出来形を計測した点についての情報					
図	■ MeasurePnt 計測点					
子要素	_					
テキスト	データ型	データ	タ	ラ	ータの意味	
ノード	list of double	<任意>			測点の座標値を、X 座標、Y 座 ペース区切りで入力する	
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール	
	pntName	計測点識別名 (必須)	string	<任意>	計測点を特定するための識別 名をファイルの中で一意とな るように記述する。	
	controlSect	計測管理断面	double	XSection/@cu mulativeDist	計測対象とした管理断面の累加距離標を記述する。 施工管理記録として提出する計測点の場合は必ず記述する。	
	xSectChg	断面変化	boolean	XSection/@ xSectChg	横断構成が変化する断面の 有 無を識別する。	
	targetPnt	計測対象点 (必須)	string	ComposedPnt /@code	計測対象とした横断面上の点 について、その構成点コード を記述する。	
	cumulativeDis t	累加距離標 (必須)	double	<任意>	計測点の位置を、基準とする 道路中心線形に対する累加 距 離標で記述する	
	buildFormNa me	構築形状の識 別名(必須)	string	BuildForm /@name	構築形状の識別名を記述する	
属 性	cLOffset	CL 離れ (必須)	double	<任意>	計測点の、平面線形からの離れ (CL離れ)をm単位で記述する。CL離れは、起点側から終点側に向かい、左側への離れを (-)、右側への離れを (+)とする。	
	timeStamp	計測日時 (必須)	dateTime	<任意>	計測した日時<表記例> "2007-02-24T14:28:40"	
		70 1 + + +		"Prism"	プリズム方式での計測の場合	
	prismMethod	測定方式	string	"NonPrism"	ノンプリズム方式での計測の 場合	
	surveySets	機器設置識別 名(必須)	string	SurveySets@name	機器設置の識別名を記述す る。	
	satNum	衛星数	integer	<任意>	計測点の平均取得衛星数を 記述する。(RTK-GNSS を用いた 出来形管理のみ)	
	rms	rms 値	double	<任意>	計測点のばらつきの指数 (RMS 値)を記述する。 (RTK-GNSS を用いた出来形管 理のみ)	
	epocNum	観測エポック 数	integer	<任意>	計測点のエポック数を記述す る。 (RTK-GNSS を用いた出 来 形管理のみ)	
	desc	備考	string	<任意>	計測点の説明	

注1: "pntName"は、出来形計測点を識別するため、交換データの中で一意になるように記述する。

<計測点の解説>

計測点は、計測した点を表す情報である。

出来形を計測した点の情報は、計測点の種別、基準とする中心線形ごとに作成した計測点セット (MeasurePnts) の中に、計測点 (MeasurePnt) として、その座標値、計測対象点等を記述する。

計測点の種別

計測点は、正式な施工管理記録として提出するための計測点とそれ以外に分類する。 正式な施工管理記録として提出するための計測点は、計測点の種別(classification)属性 を"FormControl"とした、計測点セット(MeasurePnts)の中に格納する。

計測点の種別を"FormControl"、 "QualityInspection"、 "bySupervisor"、 "byInspector"とした計測点セットについては、測定者の違いに関わらず1つの出来形管理箇所に対する計測点 (MeasurePnt) は、必ず1つとなるように記述する。

例えば、一度計測した計測点の種別"FormControl"の計測点について、新たに計測した点と入れ替えたい場合、古い計測点については、計測点の種別"FormControl"とした計測点セットから削除し、出来形帳票に反映可能な出来形計測点"Any"の計測点セットに移動させる処理が必要である。また、計測点の種別が"QualityInspection"、"bySupervisor"、"byInspector"の場合は、古い計測点を上書きし1つの出来形管理箇所に対する計測点が1点となるような処理が必要である。

・計測点の情報

計測点(MeasurePnt)には、座標値、計測点識別名、計測対象点、累加距離標、横断構成の種別、CL離れ、計測日時、機器設置識別名を必ず記述する。

正式な施工管理記録として提出するための計測点(計測点の種別を"FormControl"とした計測点セットに格納した計測点)については、計測管理断面(controlSect)を必ず記述する。 累加距離標が計測点の実際の位置を記述するのに対し、計測管理断面は計測対象とした管理断面を記述するものである。

6-11 計測機器設置セット

要素名	NX格改画ビグー SurveySets		計	・測機器設置セット			
内 容	計測機器についての情報						
図	SurveyPosition SurveySets - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
子要素	SurveyPosition to	sf:SurveyRefPnt					
テキスト ノード	_						
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール		
	name	機器設置識別名(必須)	string	<任意>	機器設置状態を特定するた めの識別名をファイルの中で一 意となるように記述する		
	equipmentType	機器名称(必須)	string	"2 級 TS"	使用した測量機器を選択する。		
				"3 級 TS"	2 級以上の TS (1 級 TS 等) は "2 級 TS" を用いる。		
				"RTK-GNSS"	2 級 13 を用いる。		
				"既知点設置"			
属性				"後方交会法"			
//A) [setupType	機器設置方法 (必須)	string	"ローカライゼー ションあり"	測量機器の設置方法を選択する		
	(光)項)			"ローカライゼー ションなし"			
	timeStamp	機器設置完了日時(必須)	dateTime	<任意>	機器設置完了日時を記述する		
	desc	備考	string	<任意>	計測機器の説明		

注1: "name"は、機器設置に関する情報を識別するため、交換データの中で一意になるように 記述する。

要素名	SurveyPosition 機器設置点						
内 容	TS の機器設置	TS の機器設置点および RTK-GNSS の基準局についての情報					
図	SurveyPosition						
子要素	_						
	データ型	データ		データの意	味		
テキスト ノード	list of double	<任意>	算出した計測機器の望遠鏡の位置をX座標、Y座標、Z座標を順に記述する。(Z座標は望遠鏡の高さである。)				
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用 ルール		
属 性	pntName	機器設置点名称	string	ControlPoint/@name BenchMark/@name	機器設置時の機器設置点 を要素の属性値より指定 する。計測機器がTSで 後方交会法による機器設 置の場合は利用しないこ ととする。		
周 1生	setHeight	機器設置高さ	double	<任意>	TSでは、機器設置高さを利用した場合に記述する(後方交会法等引照点の高さを参照して機器設置した場合は利用しない)。GNSSでは、基準局のアンテナ高。		

要素名	SurveyRefPnt			後器設置引照点			
内 容	TS の機器設置時の引照点および RTK-GNSS のローカライゼーションに用いる引照点について の情報						
図	SurveyRefPnt 計測機器引継点						
子要素	_						
テキスト ノード							
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール		
	引照点 6 refType 方法 (必須)		string	"2D"	機器設置時の引照点の利用方法が平面のみの場合		
				"BM"	機器設置時の引照点の利用方法が標高のみの場合		
属 性		(必須)		"3D"	機器設置時の引照点の利 用方法が平面・標高共有 の場合		
	pntName	引照点名称 (必須)	string	ControlPoint/@name BenchMark/@name	機器設置時の引照点を要素の属性値より指定する		
	targetHeight	目標高さ (必須)	double	<任意>	TS ではプリズム高さ。 GNSS では移動局のアンテ ナ高さを 記述する		

6-12 座標点

一一人一座保。	灬					
要素名	Pnt		座標点	Ę.		
内 容	座標点について	での情報				
図	Pnt座標点					
子要素	_					
テキスト	データ型	データ	,		データの意味	
ノード	list of double	<任意>		座標点の座標値を、X座標、Y座標、標高 の順番にスペース区切りで入力する		
	属性名	属性の意味	データ型	データ	データの意味・運用ルール	
	group	グループ名称	string	<任意>	座標点のグループを特定するための名称をファイルの中で一意となるように記述する。	
属性	pntName	座標点識別名(必須)	string	<任意>	座標点を特定するための識別名をファイルの中で一意となるように記述する。	
	timeStamp	計測日時	dateTime	<任意>	計測した日時<表記例> "2007-02-24T14:28:40"	
	desc	備考	string	<任意>	計測点の説明	

基本設計データ作成ソフトウェアの機能と要件

番号	機能	要件
1	基本情報作成	1) 契約図書を用いて、工事名や構築物情報等の工事情報を設定できる。
	機能	2) TSを用いた出来形管理で利用する基準点座標や水準点座標を入力できる。入力結
		果については平面的に位置を確認できる。
		3) ファイル管理の情報を入力できる。
2	中心線定義読	1) 平面線形データが入力できる。ただし、複数の線形を入力することができること。
	込み・作成機能	2) 縦断線形データが入力できる。ただし、1) で定義した平面線形毎に縦断線形を設
		定することができること。
		3) 作成した中心線形について、平面図及び縦断図として形状を確認することができ、
		1)、2) で入力した平面線形及び縦断線形の要素の入力値が確認できる。
3	管理断面設定	読込みあるいは作成した中心線形定義に対し、出来形管理を行う管理断面を設定でき
	機能	る。
4	横断形状定義	1) 横断形状を設定する測点で、構築形状毎に横断形状を構築する要素が作成できる。
	作成機能	2) 横断形状の中心と中心線形位置が異なる場合にオフセット値により変更できる。
		3) 各断面の横断形状に対して地山交点を設定できる。
		4) 作成した横断形状を測点毎に画面で確認できる。
5	出来形管理箇	1) 基準高さの管理箇所を設定できる。
	所の設定機能	2) 幅員の管理箇所を設定できる。
		3) 法長さの管理箇所を設定できる。
6	交換データの	1)番号1~5で作成した基本設計データを、「出来形管理用TS技術に用いる施工管理
	入出力機能	データの機器間データ交換の機能と要件」(別紙-4) に準拠したデータ形式で出力す
		ることができる。また、基本設計データ作成ソフトウェアを用いて作成された基本設
		計データを読込み、番号1~5の機能にて編集できる。
		2) 読み込まれた施工管理データのうち出来形測定データが参照しているデータは編集
		できてはならない。

出来形帳票作成ソフトウェアの機能と要件

番号	機能	要件
1	施工管理データ	1) 出来形管理用TSから出力される出来形計測結果を含む施工管理データを読込
	の読込み機能	むことができる。
		2) 読み込まれた施工管理データに含まれる基本設計データや出来形測定データは
		編集できてはならない。
2	出来形測定デー	1) 出来形管理資料を作成するための出来形測定データを選択できる。
	タの管理機能	2) 帳票作成に利用する計測点の位置を確認できる。
		3) 出来形計測データは編集できてはならない。
3	出来形帳票作成	1) 出来形管理資料について、「土木工事施工管理基準」を適用する請負工事に用い
	機能	る帳票様式に準ずる帳票を作成できる。帳票様式は、出来形管理図表(様式 2-1)
		を対象とする。
		2) 測定値と出来形管理箇所を関連付け、基準高、幅、法長、高さ、厚さ、延長を
		算出できる。
		3) 監督職員及び検査職員の立会結果を、施工管理結果と区別して表示できる。
		4) 作成した帳票及び施工管理データを電子データで出力できる。
		5) その他手法による測定値を明確に区分けできる。
		6) 出力した帳票は編集できてはならない。

出来形管理用TS等光波方式の機能と要件

	1	
番号	機能	要件
1	施工管理データの	1) 施工管理データとして、「出来形管理用TS技術に用いる施工管理データの機器間
	読込機能	データ交換の機能と要件」(別紙-1)(以下、「施工管理データ交換機能要件」とい
		う。)に準拠したデータの入力ができる。
		2) 読み込まれた施工管理データに含まれる基本設計データや出来形測定データは編
		集できてはならない。
2	TSの器械位置算	1)TSを工事基準点上に設置し、器械位置を算出できる。
	出機能	2)後方交会法により器械位置を算出できる。ただし、TSと利用する工事基準点の
		夾角が 30~150°以内の制限を超える場合は、器械位置を算出できてはならない。
		3)器械設置後に、測定機器の情報として設置方法及び設置完了時刻等を登録できる。
3	線形データの切替	1) データ読込み後、画面上に線形名一覧が表示され、選択ができる。
	え選択機能	2) TSの設置後に線形を切替えた場合、TSが認識しているTSの器械位置がリセ
		ットされない。
4	基本設計データの	1) 平面線形データ確認機能
	確認機能	① 平面線形の幾何形状を構成する要素の全ての数値を確認できる。
		② ソフトウェアが算出した全測点の測点番号・平面座標値(X,Y)・接線方向角(中
		間点計算書成果の一部)を確認できる。
		2) 縦断線形データ確認機能
		① 縦断線形の幾何形状を構成する要素の全ての数値が確認できる。
		② 縦断線形が画面に再現できる。(線形全体が一画面に表示され且つ、表示画面の
		拡大・縮小表示、移動が行えること。)
		③ ソフトウェアが算出した全測点の測点番号・計画高を確認できる。
		3) 横断面データ確認機能
		① 設計された横断面の測点名が一覧表で確認できること。
		② 上記測点の横断形状を構成する幾何要素が確認できる。
		③ 上記測点の横断形状を画面に再現できる。(ひとつの断面形状全体が一画面に表
		示され且つ、表示画面の拡大・縮小表示、移動が行えること。)
5	TSとの通信設定	1)接続するTSとのデータ通信に関する良否を確認できる。(ただし、TS一体型の
	確認機能	場合は不要。)
		2) TSの測定条件設定(温度補正の入切り・プリズム定数の設定等)を確認できる。
6	任意点での出来形	1) 測定値の座標から平面線形に直交する垂線を求め、平面線形の起点からの累加距
	管理機能	離をもとに測点を算出、表示できる。(断面抽出)
		2) 1) で算出した測点の横断形状において測定値の CL 離れ距離と当該横断形状の
		CL 離れ距離での標高差(横断形状と測定値の鉛直方向の差)、標高値を算出できる。
		3) 基本設計データから、1) で算出した測点の横断形状を算出し画面表示できる。
		4) 測定者が指定した横断形状の構成点の設計値と測定値 (CL 離れ距離、標高) とそ
		の差(CL 離れ距離差、標高差)を画面表示できる。
		5) 測定値や比較している横断形状の構成点がどの位置かを画面上に表示できる。
		6) 測定対象のプリズム高さを測定時及び測定結果の記録時に表示できる。
7	管理断面での出来	1) 管理断面名、構築形状、出来形管理箇所(中心や法肩等)を画面で選択し、被測
	形管理機能	定点へプリズムを誘導する機能。測定位置が指定した管理断面の近傍にない場合は、
		管理断面までの距離の表示できる。
		2) 管理断面名、構築形状、出来形管理箇所、出来形管理の測定項目(法長、幅員、
		基準高等)を画面上で選択し、測定できる。

番号	機能	要件
		3) 測定対象のプリズム高さを測定時及び測定結果の記録時に表示できる。
		4) 測定値を出来形管理箇所と関連付け、法長、幅、基準高を算出できる。
		5) 出来形管理の測定項目の設計値と比較し、その差を示すことができる。
		① 1点の測定で判定できるもの(基準高等)の場合は、高さ判定を行う。
		② 2点の測定で判定できるもの(法長、幅等)の場合は、測定点と対象部位(辺)を構
		成するもう一点が取得済みであるかを表示し、取得済みの時は長さの判定を行う。
		6) 管理断面に対して直角方向に±10cm以上離れた測定値は、出来形測定データとし
		て記録できてはならない。
8	延長の管理機能	1) 測定値を管理箇所と関連付け、管理箇所となっている延長を測定し、算出できる。
9	測定距離制限機能	1)TSの器械設置あるいは出来形測定前に、利用するTS本体の級別を入力できる。
		ただし、器械設置あるいは出来形測定前に入力した級別は、新たに器械設置するまでその級別を保持しなければならない。
		2) TSから被測定点までの斜距離が制限距離を超える場合には、TSの器械位置算
		出及び出来形測定データの登録ができてはならない。ただし、TSを工事基準点上
		に設置し、方向角を取得して器械位置を算出する場合は、この制限は適用しなくて
		良い。
		3) TSから被測定点までの斜距離が制限距離を超える場合に、制限距離以上である
		ためTSの器械位置算出及び出来形測定データの登録ができないことを知らせるこ
		とができる。
1 0	出来形測定データ	1) 出来形測定点の出来形管理箇所を横断図上に表示できる。出来形測定を行った測
	の登録機能	点の横断形状上に出来形管理箇所が表示できる。
		2) 出来形測定点の出来形管理箇所を登録できる。
		3) 管理断面の場合は、番号7 2) で測定前あるいは登録時に選択した出来形管理
		箇所が登録できる。
		4) 測定点の種別を登録できる。
		5) 測定機器の設置情報を登録できる。
		6)登録した出来形測定データは編集できてはならない。
1 1	出来形測定データ	1) 横断形状と出来形測定データの取得状況(取得済あるいは未取得)を表示できる。
	の取得漏れ確認機	① 横断形状の全体が一画面に表示されること。
	能	② 表示画面の拡大・縮小表示、移動が行えること。
		③ 測定漏れの有無を管理断面毎に判定し、結果を画面表示すること。
		2) 測定漏れの存在する管理断面名リストを一覧表示できる。
		3) 測定漏れの存在する場合は、2) の画面から測定点を選択し、番号7の管理断面
		での出来形管理機能により出来形測定が実施できる。
1 2	監督・検査現場立	1)番号11の画面表示上から施工管理として測定済みの点を選択し、TS設置位置
	会い確認機能	からの逆打ち誘導画面を表示できる。
		2) 測定済み点と立会い確認時の測定点の高さの差を表示できる。
		3)番号6及び7に示す出来形管理ができる。
		4) 監督・検査データであることを識別し、測定点の種別を登録できる。
1 3	施工管理データの	1)「施工管理データ交換機能要件」に沿ったデータを手作業による修正等の作業無く
	書出し機能	容易に出力できる。
		2) 出来形測定データのファイル名を任意で付けられる。

ICT地盤改良機の機能、要件及び設定

(1) 地盤改良工(表層安定処理等、固結工(中層混合処理))

1) 地	N盤以艮上(表	
番号	機能	要件
1	撹拌判定・表	・「『撹拌装置の有効な撹拌範囲』が、各管理ブロックの底面の四隅の点全てを1回
	示機能	以上通 過した場合に当該管理ブロックが撹拌された」と判定する機能。また、管理ブ
		ロックサイズを 10cm 以下にした場合については、「『攪拌装置の有効な攪拌範囲』
		が、各管理ブロックの底面の四隅の点のうち1点以上通過した場合に当該管理ブロック
		が攪拌された」と 判定する機能。
		・上記の機能で撹拌されたと判定された管理ブロックを、車載モニターに表示する機
		能。
2	改良材注入量	・区画割ごとに累積の改良材注入量及び攪拌回数を車載モニターに表示するとともに
	等計測・表示	記録する機能。
	機能	
3	施工範囲の分	・施工範囲を地盤改良設計データで指定される管理ブロックに分割し、車載モニター
	割機能	に表示する機能。
4	撹拌装置サイ	・使用する撹拌装置の幅及び奥行きに応じて『撹拌装置の有効な撹拌範囲』を任意に
	ズ設定機能	設定で きる機能。
5	システムの起	・データの取得・非取得を施工中適宜切り替えることが出来る機能。
	動とデータ取	
	得切替機能	
6	施工完了範囲	・受注者が定める管理ブロックごとの施工管理値(改良材注入量・撹拌回数等)を施
	の判定・表示	工中リアルタイムで車載モニターに表示し、これをオペレータが確認しながら施工でき
	機能	る機能。モニターへの表示方法については受注者の任意とする。
7	出来形管理資	・ICT地盤改良機械から取得する施工履歴データを用いて、出来形管理資料を作成
	料作成機能	する機能
	(施工時の写	
	真撮影を省略	
	する場合)	
8	ICT地盤改	1) 施工範囲の設定
	良機械の設定	ICT地盤改良機械に地盤改良設計データを入力し、施工範囲が車載モニターに正し
		く平面図表示されていることを確認する。
		2) 管理ブロックごとの管理値の設定
		所要の撹拌回数及び改良材注入量は、従来と同様に受注者の提案する管理値を監督職
		員の承諾のもと設定する。
		3) 撹拌装置の幅・奥行き・深さの設定
		撹拌幅・奥行き・深さは、使用する撹拌装置の、実際に撹拌翼が通過する範囲の幅・
		奥行き・深さのことである。トレンチャ式の場合は、トレンチャの刃が通過する領域の
		幅・奥行き・深さが、ロータリー式を使用する場合は、撹拌翼の幅・奥行き(回転直
		径)・深さ(回転直径)が、幅・奥行き・深さになる。実際に使用する撹拌装置の幅・
		奥行き・深さを実測し、システムに入力する。

ICT地盤改良機の機能、要件及び設定

(2) 地盤改良工(固結工(スラリー撹拌工))

番号	機能	要件
番号 1	機 能 位 位 は は 治 り 判 能 り 判 機 能	要件 1) 施工完了の判定を以下の基準に従って行える機能。 各改良箇所において、施工開始時の杭芯位置と、設計上の杭芯位置とのずれが x, y 各成分について杭径Dの8分の1 (D/8) 以内であり、かつ設計上の深度 (又は最深部の標 高) 以深に撹拌翼先端が達した場合、当該改良体を施工済みと判定する。ただし、着底管 理の場合は、従来どおりの着底判断基準を用いる。 2) 施工済み範囲の表示方法: 平面図上に図示した改良範囲に改良完了を示し、着色して表示できる機能。 3) 複数の回転軸がある場合、各回転軸の中心で設計の杭芯位置 (x, y) に対する差 (Δx, Δy) を管理できる機能。 4) 以下、①~②に示す数値を改良体の天端高として自動記録又はオペレータの操作により cm 単位で記録する機能。 ①買入吐出の工法の場合:撹拌装置買入時、空打ち部を経てスラリー吐出を伴う攪拌混合を開始する時点の吐出口の深度 (H) 又は標高 (z) ②引抜き吐出の工法の場合:改良体天端付近でスラリー吐出を伴う攪拌混合を終了する時点の吐出口の深度 (H) 又は標高 (z)
		図 撹拌判定・表示機能 (出典:3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)(令和5年3月)P8-22)
2	改良材吐出量 等計測・表示 機能	改良体ごとに累積又は深度 1 m当りの改良材吐出量及び攪拌回数を車載モニターに表示するとともに記録する機能。
3	杭径設定機能	使用する撹拌装置の径に応じて『撹拌装置の有効な撹拌範囲』を任意に設定できる機能。
4	施工完了範囲 の判定・表示 機能	受注者が定める施工管理値(改良材吐出量・撹拌回数等)を施工中リアルタイムで車載モニターに表示し、これをオペレータが確認しながら施工できる機能。モニターへの表示方法については受注者の任意とする。
5	出来形管理資 料作成機能	ICT地盤改良機械より取得する施工履歴データを用いて、出来形管理資料を作成する機能。

6	ICT地盤改	1) 施工箇所の設定
	良機械の設定	ICT地盤改良機械に地盤改良設計データを入力し、改良体の配置と改良体番号が車
		載モニターに正しく平面図表示されていることを確認するとともに、改良体番号で指定
		した任意の改良体が、平面図上の正しい位置に表示されることを確認する。
		2) 施工管理値の設定
		所要の撹拌回数及び改良材吐出量は、受注者の提案する管理値を監督職員の承諾のも
		と設定 する。
		3) 施工管理値の設定
		使用する撹拌装置の径を実測し、ICT地盤改良機械に入力する。

地盤改良設計データ作成ソフトウェアの機能と要件

(1) 地盤改良工(表層安定処理等、固結工(中層混合処理))

番号	機能	要件
1	地盤改良設計	1) 座標系の選択機能
	データの入力	地盤改良設計データの座標系を選択する機能。
	機能	
		2) 管理ブロックサイズ入力機能
		地盤改良範囲の平面的な位置を表すために、施工範囲全体を区画割に分割し、各区画
		割をさらに長方形、正方形の領域(管理ブロックとよぶ)に分割する機能。また、分割
		された領域に対して地盤改良を行う範囲を指定する機能。分割する格子の幅・奥行きの
		サイズ(以下「管理ブロックサイズ」という)は、撹拌装置の幅と奥行きのサイズより
		も小さい任意のサイズに設定することとし、ソフトウェアにはこの設定機能も必要であ
		る。
		3) 地盤改良範囲の入力機能
		設計図面に示される地盤改良範囲(平面位置・改良範囲下端の深度(H)又は標高)
		を入力できる機能。
2	地盤改良設計	上記1で作成した地盤改良設計データを使用するソフトウェアのオリジナルデータ等
	データの出力	で出力する機能。
	機能	

地盤改良設計データ作成ソフトウェアの機能と要件

(2) 地盤改良工(固結工(スラリー撹拌工))

番号	機能	要件
1	地盤改良設計	1)座標系の選択機能
	データの入力	地盤改良設計データの座標系を選択する機能。
	機能	2) 地盤改良設計データの出力機能
		設計図書等に基づき、地盤改良設計データをICT地盤改良機に入力する機能。撹拌
		装置の回転軸が複数である場合、杭芯位置は各軸について入力できること。
2	地盤改良設計	上記1で作成した地盤改良設計データを監督職員が可読であるCSVデータで出力す
	データの出力	る機能。もしくは、地盤改良計測データを監督職員が読み取ることが可能なソフトの提
	機能	出。

出来形帳票作成ソフトウェア(地盤改良工)の機能と要件

(1) 地盤改良工(表層安定処理等、固結工(中層混合処理))

番号	機能	要件
1	施工が完了し	地盤改良設計データと施工履歴データを用いて、所要の撹拌回数・改良材注入量を満
	た範囲の出力	足して施工が完了した範囲を区画図に出力する。
	機能	
2	出来形管理資	「第4 出来形管理資料の作成」に例示した出来形管理資料(全体改良範囲図、施工
	料の出力機能	管理図又は施工管理データグラフ)を参考に出来形管理資料を出力する。
		地盤改良設計データで規定された地盤改良範囲の個々の区画割に対して、撹拌回数及
		び改良材注入量が規定値を満足していることを確認できる出来形管理資料を出力する。
	I	

出来形帳票作成ソフトウェア(地盤改良工)の機能と要件

(2) 地盤改良工(固結工(スラリー撹拌工)))

番号	機能	要件
1	施工が完了し	地盤改良設計データと施工履歴データを用いて、所要の撹拌回数(軸回転数又は羽根
	た範囲の出力	切り回数)・改良材吐出量を満足して施工が完了した改良体の位置を全体改良範囲図に
	機能	着色して表示する。
2	出来形管理資	「第4 出来形管理資料の作成」に例示した資料(全体改良範囲図等)を参考に出来
	料の出力機能	形管理資料を出力する。
		地盤改良設計データで規定された個々の改良体に対して、撹拌回数及び改良材吐出
		量、深度、改良長が規定値を満足していることを確認できる施工管理データ帳票を出
		力・提出し、施工管理及び出来形管理を行う。

出来形座標確認ソフトウェアの機能と要件

番号	機能	要件
1	3次元データ	1) 作成した3次元設計データを読込んで表示する機能。また、表示機能には3次元モデ
	を読み込む機	ルとして回転、移動、拡大と縮小できる機能に加えて、平面図ビューを含むこととす
	能	る。
2	3次元データ	2) 計測した3次元座標データ(単点計測の出来形計測点あるいは多点計測の点群データ
	を読み込む機	から出来形計測箇所を選点した出来形計測点の座標データ)を読込む機能。
	能	
3	出来形管理を	3) 出来形計測点と3次元設計データを重ねて表示することで出来形計測箇所の適否が確
	行った箇所が	認できる機能。
	計測すべき断	
	面上にあるこ	
	とが確認でき	
	る機能	